



天上はるかに

秋田高校東京同窓会会報

2018年1月27日(土)

大学生との交流会 >> 13:00 ~
新春賀詞交歓会 >> 16:30 ~

もちろん皆さんご存知のことと思うが、平成の大合併以前69あった秋田県の市町村数は現在25。市の数は9から13に増え、統合・併合によって行政区分の地図上から消えた町村も多くある。

首都圏で暮らしていると、ご出身は？と尋ねられることがままある。概ねにおいては“秋田”と答えるだけで済むが、秋田をよくご存知の方などの場合は、秋田のどこ？となる。

ふと聞いてみたくなった。あなたには出身地に関して、大切に思っていることやこだわりを持っていること、何かありますか？

さて、まもなく2018年。年明け1月27日に恒例の「大学生との交流会」「新春賀詞交歓会」を開催いたします。

ぜひご参加いただき、母校校歌「天上はるかに」を声高らかに歌い、新しい年を大いに盛り上げるものにしていきましょう。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

※ 2018年の担当年度幹事は「8」のつく卒年のS 18、28、38、48、58、H9、18 卒です。参加を特によろしく。

開催要項

- 会場 …… アルカディア市ヶ谷(私学会館) >
- 受付 …… 12:30 ~
- 大学生との交流会 …… 13:00 ~ 16:30
- 講演(辻村直也氏) …… 16:30 ~ 17:20
- 賀詞交歓会 …… 17:30 ~ 20:00

◆ 当日会費・8,500円 ・学生=4,000円

※ 同封の振込用紙にての前振込の場合は8,000円です。

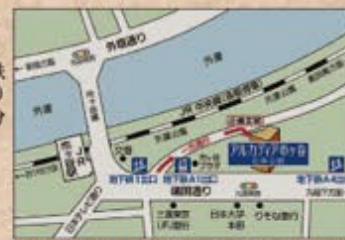
<講演者紹介>

辻村 直也氏
 秋高 H12年 卒

ウェブリオ株式会社
 代表取締役



秋高卒業後、立命館大学に入学。在学中にさまざまなアルバイトを経験していく中で、就職ではなく起業する(会社をつくる)ことを志すようになる。大学を卒業した2005年の8月にネット関連のサービスを旨とする株式会社デルフォイを設立。設立後まもなく、統合型の辞書・百科事典サイトサービスを提供する事業に着目、翌年1月から事業を正式にスタートさせ、社名をウェブリオ株式会社と改名。辞書数11でスタートしたweblioは、2016年には約650種類の辞書サイトが検索可能なものに成長。日本語圏向けの統合型オンライン百科事典サイトとして確固たる地位を築き上げている。



東京都千代田区九段北4-2-25 TEL 03-3261-9921

橋本五郎の
AKITA
 元気トーク



秋田高校東京同窓会 会長
 橋本 五郎

「希望の人々」の受賞に拍手

朝日新聞の生井久美子さんから電話がありました。生井さんの著書『ルポ希望の人びと〜ここまで来た認知症の当事者発信』(朝日新聞出版)が2017年度の「日本医学ジャーナリスト協会賞」を受賞したというのです。受賞理由には、朝日新聞記者なのにもかかわらず、日経新聞や毎日新聞にも取り上げられ、とりわけ読売新聞特別編集委員は『哲学的とも思える表現が随所にある』と賞賛したと書かれています。ありがとうございました。そういう内容でした。

生井さんとは相当年次が違いますが、中曽根内閣の官房長官だった藤波孝生さんが共通の取材相手だった関係で知り合いになりました。認知症患者はあたかも「人間廃業」であるかのようにみなされがちです。しかし、生井さんはそこに「人間らしさ」を見るのです。当事者が声をあげることに大いなる希望を見出すのです。生井さんの受賞は涙が出るほど嬉しいことでした。書評の一部を再録したいと思います。

〈この書でもっとも感銘を受けたのは、著者の辛い立場の人たちへの限りない優しさである。この「希望の書」には、哲学的とも思える表現が随所にある。

「人は死に向かって生きている。出会いがあれば別れがある。そして死の前に認知症もある。しょうがない、避けたいことがおきるのが人の定めだ。認知症の苦悩は、生きていけばぶつかることの一つなのだ。当事者の発信する姿に胸打たれ追い続けるのは、それが認知症を越えて、人としてどう生きるか、本質的な問いかけや言葉だからだ」

私は常々、二人の娘に言っています。「お父さんが認知症になっても、いじめないでほしい。そのためなら今何でもするから」と、おそらくその時は何にも分からないかも知れません。でも、その日は必ずやって来るでしょう。『希望の人々』は、その日のための静かな覚悟のようなものを求めているようにも思うのです。

平成29年7月1日/於：ハイアットリージェンシー東京

懇親会



平成29年度 定期総会・記念講演・懇親会 報告

定期総会



記念講演

講演者

進藤 孝生 氏

S43年卒

新日鐵住金 代表取締役社長
日本鉄鋼連盟 会長
世界鉄鋼協会 副会長



会・記念講演・懇親会 に参加して

菅野 庄一 S43卒

昭和43年卒にとって、今年は、結構話題の多い年となっている。その中から二つを報告したい。

7月に開かれた東京同窓会定期総会に、新日鐵住金の社長をしている進藤孝生君が講演した。テーマは「新日鐵住金の現況・私の『ラグビー人生』」。前半は、新日鐵住金と言うよりは日本の鉄鋼業についての基礎知識の披露、製鉄法のイロハから、中国の過剰な生産力に触れながら、今後の日本や世界の鉄鋼業界の再編問題など分かり易く解き明かしてくれた。後半は、彼の半生とは切っても切れないラグビーの話。秋田高校でのラグビーとの出会いや、1年生の冬に秋田高校として初めて「花園」に出場し、試合前、試合中、試合後に感じたこと、そしてラグビー魂などを、ユーモアを交えながら語った。曰く、All for one, one for all. などなど。そして、講演の最後を次の言葉で締めくくった。およそ世の中に不可能を可能にする「魔法」があるとすれば、それは「練習、努力」である。

二つ目、9月2日、昭和43年卒業生のうち105人が、ふるさと秋田に集まり、卒業50周年を祝った。実行委員長は後藤一君。同期の中では全国的有名である(多分)進藤孝生君、金田勝年君、銭谷真美君、そしてクラスごとに近況など報告。ついでこれも同期による西馬音内盆踊りやジャズ演奏を楽しんだ。終盤、みなが敬愛した鈴木健次郎校長が離任されたときの講話録音が、会場に流れた。

汝何の為に其処に在り也。この言葉にはっきり断言のできる生徒一人一人の毎日の生活であって欲しいのであります。

会場は静まりかえり、鈴木校長の講話に聞き入った。

希代の教育者であったと、改めて思う。大きな拍手。校歌を5番まで歌いあげ、10年後の再会を誓って、散会した。



特別寄稿

秋田高校東京同窓会の二木猛さんから連絡をもらい、同窓会会報に表題のテーマで、原稿を書いて欲しいとのこと。

秋田市で萌芽社から発行されている、文化情報誌『楽園』に「ある編集者の備忘録」という連載を2年ほど続けているのが、二木さんの目に留まったからである。

秋田出身の作家・文士そして出版人は決して少なくない。

「蟹工船」で有名な小林多喜二は北海道・小樽のイメージが強いが、生まれたのは北秋田郡である。下川沿村(現大館市)から小樽市に移住した伯父から声がかかったのである。

昔、実家の始末を押し付けた、弟夫婦(多喜二の両親)に恩返しとして、多喜二を小樽の学校に通わせたいという提案で、結果小樽高商へすすんだのであった。

直木賞作家で現在も文壇で確固たる地位を保つ、西木正明は私と秋田高校で机を並べていたことがある。

同じ同級生で、加藤勝美という作家もいる。大阪市立大学を卒業すると、大阪在住のままペン一本の生活をし、京セラの稲盛和夫を描いた「ある少年の夢」で脚光を浴びた。

名編集者といわれた『中央公論』の滝田栲陰(ちょいん)小説家・劇作家・演出家として活躍した金子洋文、その金子を頼って上京、農民文学作家、伊藤永之助は秋田市の生まれである。

石川達三、渡辺喜恵子、千葉治平、井口恵之、武埴三山、矢田津世子、山田順子、佐藤鉄章と続く。

子供時代、あるいは青年時代、秋田で過ごした高井有一や阿部牧郎も忘れてはいけないうらう。

また、取り上げた文士たちの中では、ひときわ若い蓮見圭一を加えておきたい。1959、秋田市生まれ。秋田高校から立教大学を卒業後、2001年『水曜日の朝、午前三時』がベストセラーになり作家デビューした。

次号へつづく

秋田出身の文学者たち I



田村 紀男(たむらのりお) S34卒

1940年、秋田市生まれ。秋田高校、早稲田大学を卒業後ダイヤモンド社に入社。書籍出版編集長、取締役を経て代表取締役社長に就任。退任後は財団法人、NPO法人の理事を務め、現在は出版プロデュース業。



寄稿

朝倉 正弥 H19卒

平成19年度卒の朝倉と申します。先日、ご縁があり懇親会に出席させて頂きました。

卒業から10年が経ちますが、私の高校時代は人格形成において大いに糧となった日々でした。放送委員会での活動、三大行事、フィールドワークなど盛り沢山の濃い3年間でした。秋高祭の準備で徹夜した折に見た朝焼けの色は今でも忘れられません。

印象に残る出来事があります。理数セミナーの授業で、大学教員をお招きして講義を聴いた時のこと。レポートの提出が課せられていたのですが、後に当時の和田央先生より「違う視点で論じているのは、クラスでお前しかいなかった。そういう視点は大事だ」という言葉を頂きました。他人と違うことを恐れない——何気ないやりとりだったかもしれませんが、あの言葉は今でも私の財産です。大学進学で京都へ進んだ時、前職を辞して上京した時など、人生の決めて断つ場面ではいつも秋高で培った進取の精神が心のどこかで支えになっていたのかもしれません。

同窓会に話を戻すと、当日は錚々たる顔ぶれの諸先輩方ばかりで、恐縮しきりそのまま過ごしてしまいました。心残りの感がありますが、世代の異なる諸先輩方と話を花を咲かせることが出来たのはやはり「秋高」という共通の話題があればこそ、と言えます。私個人は一介のエンジニアで、何の変哲もない卒業生に過ぎません。されど、いつかはこの母校に恩返しが出来れば良いと願っております。何卒宜しくお願い致します。

柴田 雄飛 H19卒

普段の交流の枠を超えて新たな交流関係を築こうと考え、今回初めて東京同窓会に参加させて頂きました。

当日は、本当に有意義な時間を過ごすことができました。会場では、普段交流することのない各方面でご活躍されている方々とお話することができ、新たな交流関係を築くことができました。それだけでなく、たくさんの刺激を受けることができました。それらの刺激は、お話をさせていただいた相手によって異なるものでした。先輩はこれまで豊富なご経験を積まれた方として、同期はこれから将来を担っていく友、ライバルとして、後輩は将来を切り拓いていく若さと活力を持った者として、それぞれ異なる角度から刺激をもたらしてくれました。

このような経験ができるのは、強固たる縦の繋がりがあからであり、その繋がりは、伝統ある我が校だからこそ生み出せるものだと感じました。

今回は、20代の若手の出席者が少なく寂しさを感じるころはありましたが、これからも縦の繋がりを守るためには、若手も盛り立てていかなければなりません。私は、来年には30代に突入するため、「若手」と名乗ることに對して異を唱えられる方もいらっしゃるかもしれませんが、ここは敢えて「若手」と名乗らせていただき、「若手」会員として東京同窓会の更なる発展のお手伝いをさせていただく所存です。また皆様にお目にかかれまことを楽しみにしております。

工藤 真弘 S48卒

秋田高校の同窓会には初めて参加させて頂きました。橋本会長はじめご登壇される皆さんのお話に、郷里秋田への思いを新たに、ほとんど忘れていたあの頃を思い起こしました。特に進藤さんの御講演を拝聴し、ラグビー部のみなさんのお話を伺っていると、校舎下のグラウンドで練習に励む緑と白のユニフォーム姿が目に見えてくるようでした。そのころ自分はというと、授業が終わるやいなや自転車にまたがり、彼らの姿を横目に見ながらうぐいす坂を駆け下り、市内を走り抜けて川尻の艇庫まで、そこからオールを揃えて、いや、なかなか揃わなくてコックスの罵声を浴びながら、秋田運河の濁った川面に汗を滴らせる毎日でした。思えばここが自分の原点でした。水産技術職として東京都に入り、その大半を伊豆、小笠原諸島の海と多摩川の上流で過ごしてきました。この3月で40年の勤めを終え、最後の赴任地小笠原父島より帰宅して、なにやら抛りどころを失い、糸の切れた凧のような気分でした。今回はほとんど初めてお会いする方々ばかりでしたが、そこはやはり同窓、同郷、共通の思いで話はずみ、二次会までご一緒させて頂きました。諸先輩の故郷と母校を思う熱い心と、現役でご活躍されているお元氣なお姿を拝見して、自分もまた皆さんと同窓であることを誇りに思い、もう一度滑り出してみようかなという意欲が湧いてきた有意義なひと時でした。

平成29年度 定期総

東京同窓会への出席と卒50周年同期会

後藤 一 S43卒(昭和43年卒業同期会会長)

平成29年7月1日東京同窓会に出席致しました。会場は「新宿のハイアットリージェンシー東京」でした。

当日は朝一番の「こまち」で東京駅に着き、中央線で新宿駅に向かいました。そこには同期の西岡清一郎君が迎えに来ていてタクシーでホテルまで案内して頂きました。新宿には、大学生の時、県警に勤務していました故太田武幸君がアパート(現在地だと都庁の傍)に住んでいた時々仙台から遊びに行っていました。それ以来でしたのでホテルやビルが立ち並びあまりの変化に大変驚きました。

東京同窓会には同期生が6名出席しており、懐かしい面々でしたが秋高時代と印象が変わっていてなかなか思い出せませんでした。

橋本五郎会長のご挨拶の後に講演会があり、同期の新日鐵住金社長の進藤孝生君の社業の話が約一時間ほどありました。内容は鉄鉱石と石炭から高炉をばいり用用途別にどのようにして作るかパネル等を使いながら説明がありましたが、真面目過ぎるのは彼の性格らしく、専門的でしたが我々素人にもわかりやすく説明してくれ理解することができました。そして懇親の場となり約70名の方々とお話しすることができました。

次に、我ら昭和43年卒の卒業50周年同期会が、平成29年9月2日に秋田で盛大に行われ105名の方が出席しました。新校舎見学や式典、懇親会パーティー等盛大に開かれました。卒業50周年としてゴルフコンペや式典当日キャッスルホテルにおいて厳粛な式典の後にクラス別に出席者が着席して旧交を温めたのですが、普段付き合いのない仲間や卒業後50年ぶりに会い会話する仲間もいて賑やかに過ごしました。

その後の二次会は同ホテルの別会場で40名ほど出席して夜10時過ぎまで楽しく行いました。これもひとえに出席者の皆様のお陰であると思っております。本当にありがとうございました。

S36(東京秋高36会), S41(秋交会), S55会

秋交会30年の歴史/昭和41年卒 東京同期会

湊 亮策 S41卒

秋田高校を昭和41年に卒業し、その後主として首都圏に居を構えた同期の集まりが秋交会です。メンバーは現在男性34名、女性11名の合計45名で、時には秋田から同期が駆けつけてくれることもあります。

設立の経緯は、約30年ほど前(1986年頃)京橋界隈に勤めていた土屋豊司、高橋丈夫、斎藤悟君の発案に那須誠、長谷川優、藤原秀明、田口佳孝、大森彰夫君が加わり、六郷出身のママがやっていた銀座の「じゅんさい」という店で同期会設立に向けた準備会を開いた後、土屋君の知っていた六本木の「ミッドウェー」という店で第一回同期会を開催しました。会の名称を秋交会と命名したのは藤原君のようです。大変残念なことに、尽力された土屋、斎藤、長谷川、藤原の各君は故人となりました。

その後原則年2回、夏・冬に卒業時のA組からJ組が順繰りで幹事を務めここまで来しました。当初は飲み会だけでしたが、数年前より知的好奇心をさらに満たしお酒をより一層おいしく飲む趣旨で懇親会の前に会場近くの名所旧跡散策を取り入れ、今まで「皇居東御苑内植物観賞」「日本橋紙漉き体験」「旧古河邸庭園」「両国界限史跡巡り」「丹沢山麓温泉」「上野界限史跡巡り」等々、和気あいあい楽しくやってきました。古希を迎えましたが、秋交会40年、50年を目指して一層交友を深め元気に活躍したいと、メンバーの意気はますます軒昂です。



ご報告

平成29年度 在京秋田市政情報交換会

11月15日、アルカディア市ヶ谷に於いて「平成29年度 在京秋田市政情報交換会」が開催され、鎌田幹事長他4名が参加しました。

同会は秋田市とけやき会(秋田市内にある高校の在京同窓会と郷土会で構成された団体)が主催するもので、秋田市長より市政の近況をお聞きするとともに、秋田市及び在京の秋田市に縁のある企業や中央官庁の方々を広くお招きしての情報交換などを目的として開催されているものです。

本年度は、けやき会会員と来賓を含め、総勢170名の方々が出席されていました。

尚、けやき会へは当同窓会から伊藤清信(S37卒)と武内暁(S42卒/けやき会副会長)の2名が委員として協力しています。



同期会だより

東京秋高36会/昭和36年卒 東京同期会

村山 公士 S36卒

東京秋高36会(36年卒東京同期会)は毎年3月6日に、曜日に問わず開催するのが恒例になっています。今年は月曜日でしたが、もちろん予定通り開催しました。会場は、懐かしい「学士会館」、40名の参加者でした。うち女性は6名、秋田から3名、花巻、青森からも参加がありました。

16年前(2001年)に、「佐々木毅君の東大総長就任を祝う会」を36会が主催、200名もの参加者を集めて盛大に祝宴を行った懐かしい場所です。開会前は、当時の写真やビデオを見ながら、「若かったね」、「懐かしい」と昔話に花が咲きました。

開会冒頭に亡くなった友人を偲んで黙祷、続いて当会の松岡会長からのサラリーマン川柳の紹介で会場が和んだところで、佐々木毅君のミニ講演、のはずが、意外に本格的な講演となっていました。花巻からの湯川君の音頭で乾杯、その後はいつもの賑やかな宴席となりました。



37年ぶりの授業/昭和55年卒 東京同期会

佐藤 研 S55卒

昭和55年に卒業した私たちは、去る7月1日に東京芝パークホテルにて同期会を開催しました。

関東在住の同志が発案し、今回で3回目となる「同期会in東京」には、地元秋田ではないにも関わらず、北は北海道、南は兵庫から、43名の同期が集いました。加えて理数科担任の柴田義弘先生、当時全校最強の男、船木賢咲先生のお二人のご列席を賜り、みな望外の喜びとなりました。

せっかく先生方お二人がおいで下さったので、会は授業形式とし、柴田先生の数学と、船木先生の格技を教わりました。中には柔道着を着込んで来る男もあり、また案の定会場の周囲は秋田弁の増場と化し、空気はあのころの手形山のひとときそのものでありました。お二人とも大変お元気そうで、あの頃のことを私たちよりも克明にご記憶されているのには、

すったげドデしました。

講義のあとは自由に飲んで騒いで・・・と思いきや、自主研究テーマ発表として、歴史(当時の写真満載のスライドショー)、音楽(フォークダンス「マイムマイム」、合唱「心の旅(ギター:西山君)」)と、さすが進学校らしく勉強漬けの会となり、あっという間の2時間を過ごし、補習授業もたっぷりとしたのでありました。

昨年に続いてご列席賜った柴田先生から、「今年は船木先生が加わってくれた。来年は米田先生を連れてくるか!」と、ありがたいお言葉。

来年は授業が増えそうです。うれしいやら、苦しいやら、..



● 平成29年度/会費納入者一覧

平成29年4月1日～平成29年10月31日 現在

昭和16年 小沢 暁民	昭和32年 栗林 弘	昭和39年 葛西 滋	昭和43年 富岡 恒	昭和54年 金澤 靖夫
昭和16年 橋本 彰夫	昭和32年 戸嶋 成忠	昭和39年 佐藤 二郎	昭和43年 西岡 清一郎	昭和54年 小玉 正志
昭和18年 高橋 郁夫	昭和32年 二木 芳郎	昭和39年 鈴木 正博	昭和43年 播磨 吉男	昭和54年 小柳 宏
昭和19年 宮川 豊	昭和32年 松田 祥男	昭和39年 高橋 理輔	昭和44年 五代儀 俊悦	昭和55年 有路 直樹
昭和20年 大友 英一	昭和33年 今野 昭	昭和39年 高村 國男	昭和44年 老松 秀明	昭和55年 山口 宣子
昭和20年 小玉 保次	昭和33年 熊谷 光太郎	昭和39年 高山 兼悦	昭和44年 尾形 均	昭和56年 島本 道夫
昭和20年 清水 高義	昭和33年 高橋 紀夫	昭和39年 原田 幸雄	昭和44年 高橋 裕次郎	昭和57年 藁谷 宏
昭和21年 那小屋 豊	昭和33年 宮野 元	昭和39年 二木 猛	昭和45年 菅 寛	昭和58年 阿部 充
昭和22年 加藤 三朋	昭和34年 板倉 義雄	昭和40年 岡本 宣子	昭和45年 東海林 和彦	昭和58年 工藤 亨
昭和23年 明石 康	昭和34年 上原 典子	昭和40年 小沼 武敏	昭和45年 田原 清彦	昭和59年 伊保谷 徹
昭和23年 菅原 寛治	昭和34年 桑原 裕子	昭和40年 鎌田 政朋	昭和46年 佐々木 孝子	昭和59年 佐々木 良枝
昭和23年 星野 恒雄	昭和34年 佐藤 宏二	昭和40年 河田 章	昭和46年 成田 裕一	昭和59年 渡部 博
昭和25年 荒井 献	昭和34年 進藤 満洲生	昭和40年 佐々木 唯夫	昭和46年 藤川 長敏	昭和60年 佐藤 映
昭和25年 菊池 巖	昭和34年 高橋 恒松	昭和40年 佐藤 三郎	昭和47年 加賀谷 博史	昭和60年 松永 敦
昭和26年 五十嵐 泰弘	昭和34年 武藤 良孝	昭和40年 中西 祥子	昭和47年 鎌田 進	昭和61年 稲村 賢治
昭和26年 伊藤 隆	昭和34年 山田 倍子	昭和40年 山田 義昭	昭和47年 佐々木 誠一	昭和62年 齊藤 敬
昭和26年 小熊 巖	昭和35年 小泉 忠一	昭和41年 板澤 幸雄	昭和47年 柴田 紀彦	平成08年 柳澤 奉享
昭和26年 佐々木 清水	昭和35年 吹浦 忠正	昭和41年 大槻 幸一郎	昭和47年 田口 博視	平成12年 三浦 祐介
昭和27年 石山 喜章	昭和36年 伊藤 則昭	昭和41年 加藤 貢	昭和47年 三澤 英一郎	平成19年 柴田 雄飛
昭和27年 加藤 明男	昭和36年 岩堀 泰雄	昭和41年 佐藤 和夫	昭和48年 大橋 朗	
昭和27年 高橋 恒雄	昭和36年 柏木 征彦	昭和41年 猿谷 彰	昭和48年 齊藤 正範	
昭和29年 白滝 一紀	昭和36年 佐々木 毅	昭和41年 田口 佳孝	昭和48年 榎 純一	
昭和29年 武藤 寛	昭和36年 嶋貫 邦夫	昭和41年 成田 憲明	昭和48年 東海林 豊	
昭和30年 秋山 文平	昭和36年 須磨 洋次郎	昭和41年 堀内 一志	昭和48年 菅 慧誠	
昭和30年 大坂 弘二	昭和36年 田口 平治	昭和41年 緑川 稔秀	昭和49年 加藤 俊	
昭和30年 大塚 正民	昭和36年 村山 公士	昭和42年 大森 正高	昭和49年 小林 生央	
昭和30年 佐藤 敬幸	昭和36年 森川 毅	昭和42年 森野 良孝	昭和49年 白石 好	
昭和30年 澤島 明	昭和37年 伊藤 清信	昭和42年 渋谷 潔	昭和49年 高橋 伸	
昭和30年 薄田 耕二	昭和37年 柴田 捷司	昭和42年 清水 光雄	昭和49年 高原 宏	
昭和30年 船本 孝雄	昭和38年 伊藤 博康	昭和42年 田村 信次	昭和49年 館山 英昌	
昭和31年 相場 三郎	昭和38年 加賀谷 久	昭和42年 那波 一寿	昭和49年 松井 利一	
昭和31年 伊勢 諒吾	昭和38年 佐々木 博章	昭和42年 畑山 康幸	昭和50年 網干 博文	
昭和31年 大本 香津子	昭和38年 鈴木 宣正	昭和42年 吉村 和就	昭和50年 大嶋 暢	
昭和31年 柿崎 正	昭和38年 武田 義之	昭和43年 石川 聖子	昭和50年 熊谷 忠志	
昭和31年 佐々木 行	昭和38年 千葉 邦雄	昭和43年 小柳 清光	昭和50年 今野 仁	
昭和31年 佐藤 公隆	昭和38年 豊島 順男	昭和43年 神坂 光	昭和50年 清野 多賀子	
昭和31年 高橋 壽夫	昭和38年 山方 三郎	昭和43年 菅野 庄一	昭和50年 渡辺 正剛	
昭和31年 中川 信夫	昭和38年 山本 均	昭和43年 佐々木 博和	昭和51年 館岡 進	
昭和31年 中村 啓一	昭和38年 湯澤 邦彦	昭和43年 柴田 司	昭和51年 徳積 文孝	
昭和31年 原田 善治	昭和39年 明石 貞一郎	昭和43年 進藤 孝生	昭和52年 伊藤 博基	
昭和31年 町田 容	昭和39年 阿部 信泰	昭和43年 田村 慶則	昭和52年 鈴木 久彰	
昭和32年 男鹿谷 和美	昭和39年 天野 洋右	昭和43年 千葉 真知子	昭和53年 石井 清明	

ご協力に感謝いたします

● 会費納入のお願い

本会の運営は、会員の皆さんからの会費によって支えられております。毎年度の会費の納入をよろしくお願いいたします。このページには本年度の会費納入者を掲載しております。会費が未納の方は、本会報同封の郵便振込用紙にて、年会費3,000円のお振込みをお願い致します。今年度会費納付済み方に重複して振込用紙が同封されている場合は、申し訳ありませんが、破棄してください。郵便局の口座番号は次のとおりです。

00150-0-353596
「秋田高校東京同窓会」

● 同窓会本部事務局だより

本部事務局長 柏木 幹夫 S46卒

本年10月1日より事務局長を仰せつかりました柏木です。微力ではありますが、少しでも皆様のお役に立てるよう努めますので、何卒よろしくお願いたします。

この会報『天上はるかに』を拝読いたしますと、東京同窓会の皆様の日頃から若い同窓生を慈しみ、温かく見守り育ててこられたことがよくわかります。益々のご発展をお祈りいたします。

さて、10月も半ばを過ぎて、秋田もいよいよ寒風を感じる季節となりましたが、去る9月1日(土)・2日(日)には、母校では『秋高祭』がとり行われました。今年のテーマは『千紫万紅』(せんしばんこう)とのこと。辞書を引くと『種々さまざまの花の色。また色とりどりの花が咲き乱れるさま。』とあります。なるほど、秋高健児の夢が咲き乱れるさまかと得心したところではありました。なお、秋高祭にあわせて、同窓会ではホームカミングデーの試行が行われ、100人ほどの同窓生に来訪いただきました。来年も実施を予定しております。是非お立ち寄りください。

● 幹事長だより

東京同窓会幹事長 鎌田 進 S47卒

ここ何年かは春らしい気候とか秋らしい気候というものあまり感じられなくなってきました。暑い夏が終わったかと思うと残暑が厳しく、ちょっと寒くなってきたかと思うと一気に冬に突入するという感じです。秋の夜長というものがすっかりなくなってきたように思います。もっとも東京で毎日あわただしく生きてるとそのような気分には浸っている時間がないのかもしれませんが。

今年の日本も大変あわただしい時間が流れています。北朝鮮のミサイルが日本上空を平然と飛んでいくようになりました。日本には憲法9条があるから永遠に平和が保たれるのだと豪語する人達もいます。その人達には是非平和を保って頂きたいと思います。

さて、東京同窓会では平成30年1月27日に「学生との交流会」・「賀詞交歓会」を行います。講師は平成12年卒の辻村直也氏です。ウェブリオ(株)の代表取締役です。若い人の活力あるお話が聞けることと思います。ぜひご参加ください。